

令和6年度 授業改善推進プラン (小学校学級担任用)

福生市立福生第一小学校 第4学年2組

1 福生市学力・学習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	組	全国
学びに向かう力	感情のコントロール	8 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	92.6%	93.2%
		53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある	66.7%	76.7%
		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	85.2%	90.8%
	目標の達成	18 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることもある	51.9%	59.8%
		26 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	83.4%	74.1%
	他者との協働	104 わたしは、友だちの心をきずつけることを言ったり、からかったりしていない	86.4%	83.4%
	学力と関係が深い質問	31 授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方も一緒に理解しようとしている	51.9%	69.8%
		36 目標に向けて、ふだんからこつこつ学習している	59.3%	65.7%
		45 自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる	66.7%	74.6%
領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題			
国語	言葉・情報・言語文化	▲全国平均正答率を18.5ポイント下回り、(漢字の書き(こうえんで遊ぶ。))設問に課題がある。		
	話すこと・聞くこと	▲全国平均正答率を13.7ポイント下回り、(山川さんの発表に対する質問の意図を選ぶ)設問に課題がある。		
	書くこと	▲全国平均正答率を12.2ポイント下回り、(登場人物の心情をまとめた文の空欄に入る言葉を書く)設問に課題がある。		
	読むこと	▲全国平均正答率を8.1ポイント下回り、(詳しく説明している一続きの段落を書く)設問に課題がある。		
算数	数と計算	▲全国平均正答率を20.4ポイント下回り、(場面を式に表し答えを求める)設問に課題がある。		
	図形	▲全国平均正答率を6.7ポイント下回り、(同じ大きさの円が並ぶときの直線アイの長さを選ぶ)設問に課題がある。		
	測定	▲全国平均正答率を6.6ポイント下回り、(適する単位を選ぶ)設問に課題がある。		
	データの活用	▲全国平均正答率を9.8ポイント下回り、(棒グラフから2つの項目の人数の差で正しいものを選ぶ)設問に課題がある。		
2 児童の実態		3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組		
<p>・国語の漢字テストでは、自学ノートに繰り返し練習したり、漢字ドリルを何度も見直したりしているなど、児童の意欲的な姿が見られた。しかし、「言葉・情報・言語分野」の領域の平均正答率は低く、定着していないことが分かる。また、「始め」「中」「終わり」の構成で文章を書くことが苦手な児童が多く、考えや気持ちが正確に伝わるように文章を書く力が十分ではない。</p> <p>・算数では、難しい課題に対しても意欲的に取り組む児童が多い。プリントなどに取り組むと、終わりの時間まで粘り強く取り組んでいる。一方で、「数と計算」の領域では、筆算の繰り下がりや繰り上がりでの誤答が多く見られ、正答率が低い。また、数直線のかき方を見ると正しくかけていない児童が多く、定着は十分ではない。</p>		<p>・国語の漢字テストに向かう積極的な姿勢を褒めつつ、漢字練習の際には漢字の成り立ちに関する昔話を紹介したり、同じ部首の漢字を集め共通点を考えさせたりするなど漢字に興味をもてるような工夫をする。また、文章を書く学習では、5W1Hを用いた例文を提示し、手本を基に取り組むように指導する。その際、既習した漢字は活用するように促す。</p> <p>・算数では、繰り下がりや繰り上がりなど、誤答が多くなる問題ほど時間を確保し、丁寧に計算に取り組むことのできるよう指導していく。また、数量の関係を扱う授業では、数直線を用いて考えることができるようにする。数直線のかき方を指導し、問題文を正しく読み取り、適切に図がかけられるようにする。</p>		
4 ミライシードとの連携機能を活用した取組				
個別ドリルの実施状況	令和6年8月末時点で完了している児童	88.8%	(24人/27人中)	
確認テストの実施状況	令和6年8月末時点で完了している児童	88.8%	(24人/27人中)	